

2026年度 第8回 COLS 考古学フォーラム

人はどのように 海峡を横断したのか？

—旧石器から縄文早期の津軽海峡を考える—



明治大学黒耀石研究センター
Center for obsidian and lithic studies

2026年10月31日(土)

会場：明治大学駿河台キャンパス
グローバルフロント 4021 教室

● 発表者

鈴木克章：浜名湖パドル代表・シーカヤック日本一周達成者
高沢進吾：ポイントホープ鯨組構成員・皮舟職人
根岸 洋：東京大学大学院人文社会系研究科
青木要祐：東北大学埋蔵文化財調査室
池谷信之：明治大学黒耀石研究センター
諏訪間順：明治大学黒耀石研究センター

● 進行

大竹憲昭：明治大学黒耀石研究センター・池谷信之

● 総括

堤 隆：明治大学黒耀石研究センター

津軽海峡に行くシーカヤック
(対岸は渡島半島，鈴木克章 撮影)



第8回 COLS 考古学フォーラム
人はどのように海峡を横断したのか？
—旧石器から縄文早期の津軽海峡を考える—

2026 年 10 月 31 日（土）

会場：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 4021 教室

主催：明治大学黒曜石研究センター（COLS）

共催：大竹憲昭代表 科研費基盤（C）「後期旧石器時代の成立とその出現前夜にかかわるフィールドアーケオロジー」

共催：諏訪順代表 科研費基盤（C）「高精度編年による旧石器時代史の構築」

【開催の主旨】

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を契機として、津軽海峡を挟んだ文化的交流への関心が高まっている。しかし、その構成資産の多くは縄文前期以降に属し、それ以前の往来と実態については未解明な部分が少なくない。しかし最近になって、旧石器時代（細石器段階）～縄文時代早期の黒曜石原産地推定や、縄文土器研究の進展にともない、その実態は着実に解明されつつある。本シンポジウムでは、まずこれら最新研究の成果を提示し課題を整理したい。

また、細石器段階には磨製石斧が存在せず、草創期～早期における丸木舟の出土例もほとんど確認されていないため、海峡横断に丸木舟以外の「舟」が用いられたことも考慮する必要がある。本フォーラムでは津軽海峡横断を達成したカヤッカーとアラスカ・ポイントホープで皮舟による鯨鯨を続ける猟師の報告を通じて、海峡横断の技術的条件と方法についても検討する。

【プログラム】

主旨説明	10:20 ～ 10:30	諏訪順
講演1	10:30 ～ 11:00	池谷信之 先史時代海峡横断序説
講演2	11:00 ～ 12:00	青木要祐 「津軽海峡をめぐるヒトと黒曜石の動き—細石刃石器群を中心に—」
昼食		
講演3	13:00 ～ 14:00	根岸 洋 「土器型式・黒曜石・年代からみる縄文早期の海峡間交渉」
フィールドレポート1	14:00 ～ 14:45	鈴木克章 「シーカヤック日本一周・津軽海峡横断往復レポート」
休憩	14:45 ～ 15:00	
フィールドレポート2	15:00 ～ 15:45	高沢進吾 「アラスカ・ポイントホープの皮舟と鯨鯨」
休憩	15:45 ～ 16:00	
意見交換	16:00 ～ 16:50	「人はどのように海峡を横断したのか？」 進行：大竹憲昭・池谷信之
総括	16:50 ～ 17:00	堤 隆



●● 参加申し込み ●●

◇「明治大学黒曜石研究センター」のホームページ
<https://www.meiji.ac.jp/cols/> にて、「イベント一覧を見る」→
「2026 年度」→「第8回 COLS 考古学フォーラム」→「参加申込」
と進み、Google フォームのリンクから登録してください。
◇下記のリンクから Google フォームに進むこともできます。
[https://docs.google.com/forms/d/
e/1FAIpQLSfA8gLIqC69qCAG8T_
mMl8GUHUWHZXsqoLolbqQoBFR-P3hTg/viewform?usp=header](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfA8gLIqC69qCAG8T_mMl8GUHUWHZXsqoLolbqQoBFR-P3hTg/viewform?usp=header)
◇右下の QR コードからのアクセスも可能です。
(10 月 20 日まで、先着 100 名)

●● 連絡先 ●●

〒101-8301
東京都千代田区神田猿樂町 1-6-3
明治大学猿樂町第 3 校舎
Tel 03-3296-4424
e-mail:meiji.cols@gmail.com
明治大学黒曜石研究センター

